

(1)ドライバ ス	品質・性能 JIS規格	
項目	品質・性能	
表材	JIS A6512「可動間仕切」の表Xに応する材質のうち、鋼材については、防食処理及び防錆処理を施した材質とする。 裏表材	
JIS A6512「可動間仕切」の表Xに応する材質のうち、鋼材については、防食処理及び防錆処理を施した材質とする。 心材	JIS A6512「可動間仕切」の表Xに応する材質とする。ただし、(ア)に別途表示書一式の場合に適用しない。	
枠材	JIS A6512「可動間仕切」の表Xに応する材質のうち、鋼材については、塗装めっき処理を施した材質とする。	
エッジ材		
小口	防水処理を施す。	
(2)構造部材		
項目	品質・性能	
笠木	JIS A6512「可動間仕切」の表Xに応する材質のうち、耐候性のあるものとする。	
頭部(頭釘、頭木)	頭つなぎ等で使用するビア類の材質はアルミニウムとする。	
壁見切り金物		
頭つなぎ等		
(3)付属金物		
項目	品質・性能	
ビン	耐候性のあるものとする。	
ドローリット		
戸当り	腐蝕の恐れのある材料には防錆処理を施してあるものとする。 戸当り部のドローリットは、使用に十分耐える材質であるものとする。	
(4)外観は、JIS A6512「可動間仕切」の(i), (b)による。		
(5)外表面材の耐薔薇虫・耐汚染性・耐引っかけ性・開閉耐久性		
項目	品質・性能	
耐薔薇虫性及び耐汚染性	耐引っかけ性	
(ア)ガラス系耐候化粧板 及ぼ(シ)ガラス系 系單一材	JIS R9907「耐候性ガラス耐候化粧板 試験方法」15.2の表Xに示された 耐候性のうちの標準値3.3, 6.7, 8.8, 9.3。 この試験結果の判定は、「変化な じであつた」とまた、耐候等号 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13 化等と並んで表示されるもの とすらす。これらと並んでの性 能評定のものは、のべる。	-
耐圧・引張耐候化 粧板	JIS T4749「耐候性ガラス板」、JIS T4748「耐候化粧板WPC」、JIS T4747「耐候化粧板 試験方法」の表Xの規定に適合していること。	
ドリーム耐候系 加工化粧板	JIS A6501「耐候性ガラス板」、JIS A6502「耐候性ガラス板」 試験において、試験部の表面に色 斑が現れないこと。	
ギリッシュ耐候系 化粧板	JIS A6503「耐候性ガラス板」の表Xの規定に適合していること。	
ギリッシュ耐候系 化粧板	JIS A6508「(テクノマー)」の表Xの規定に適合していること。 化粧板(テクノマー)	

(床点検口) (品質・性能)		以下のもの又は同等のものとする		
部材名	材質	岸内専用	岸内用	
受鉄口	7ミリシート 7ミリ合金押出形材	JIS H4100の600G3S (表面処理)HIS H602のH2種又はJIS H601のAA15		
蓋鋼	アルミ鋳鉄	JIS H4305のSU304, SU340JUL (表面処理)H2又は上記寸法	JIS H4305のSU304 (表面処理)H2又は上記寸法	
	鋼製	—	JIS G3137の箱形又は角型、一組引き止めかK.5612の防錆処理を要する	
二重蓋の上蓋	鍛鉄	JIS G5501のFC150, FC200		
目地材	黄銅	JIS H3100 C2600, C220, C2801 JIS H3250 C3629, C3604		
	アルミニウム	JIS D4305, JIS D4308 SU304又はSU340JUL		
底板材 コーナー L-スチール補強材	アルミ鋳鉄板 7ミリ鋼板	JIS H4305, JIS H4308 SU304 SU340JUL JIS H4000(A1100P H24) 表面処理: 鋼価酸化塗装複合被膜 又は JIS H601(AA15) JIS H602(B)	JIS H4305 —	
	鋼材	—	JIS 03113の鋼に付ける 鍛鉄、一般鋼引き止めか K.5612の防錆処理を要する	
パラシ材	塩化ビニコ系、軟質塩化ビニル、クロロ・レバ・エーテル等の材質、形態に適した彈性率、塑性差、気密性等のものとする。			
フック材 取手	鋼製に電鍍銀めっき又は防錆処理を行ったもの			
鍵	黄銅製鍵、黄銅、7ミリ引出形材、合金鍼鍛鉄、アルミ シート製、アルミ鋳鉄、7ミリ引出形材等で被覆されたもの、 の内のものは、衝撃による破損、剥離しないものとする。 鍵箱、アルミ箱、亜鉛合金製とする			
蓋の荷重性能	蓋の荷重(積載量)1,000kgにおいて残留たわみが点検 の0.08以内であることを 含む。蓋の外側の使用上支障がないと 確認後蓋は、荷重時のPhの2倍以上であること			
受け枠寸法				
受け枠寸法の許容差	±0.5mm			
蓋受け寸法の許容差	±0.5mm			
受け枠と蓋枠のクリアランス	片側2.0mm以内			
（駆除方法）				
駆除試験				
封替部は、仕切部用とし、600mm角程度、快適込みは、40mm以下とする。 試験は、蓋の凹面と支持させ、蓋の中央部に±50mmの圧縮力を設置し、加压する。 本試験前120時間以上加压してから、本試験を行う。 本試験は、1,000kgで加压、荷重除去を3回繰り返し行った後、その後試験体が破壊(終局荷重)まで加压する。 測定は、蓋中央部にかかる荷重を200kg掛す毎にたわみの変形その他の以上について 1,000kgまで3回繰り返す。				

屋上緑化システム (品質・性能)		項目	品質・性能
透水率		合成樹脂等で耐食性及び耐久性のあるものであること。	
排水層等構成材の主要材質	(保水層を有する場合は、保水層)	合成樹脂等で耐食性及び耐久性のあるものであること。	
透水層		自點まりにより植物の生育に支障を生じることなく、補植込み用土を流出させない構造であること。	
排水層		植物の生育に必要な排水性能をもち、通気性及び縦込み土壌を支え、根の呼吸を保つこと。	
透水層の直角方向の排水性能		40mm/h以上であること。	
耐剪断性		4kg/cm <sup>2</sup> 以上の初期引張力で破壊しないこと。	
耐静圧強度	3.0~10.4N/mm <sup>2</sup> 以上の耐静圧で荷重一荷重なしひずみなど異常のないこと。(保水層を有する場合は保水層)		
耐根壓		草花や木本植物を含め、「#」等の寸法基準を満たす各部位に於ける植物に対して3年以上の耐根圧性を有し、かつ、耐食性及び耐久性のあるものであること。	
防水層保護層	材質は、成合樹脂等とし、耐食性及び耐久性を有し、かつ、施工工及び竣工後の根被保護を保護するものであること。但し、防水層が防水層保護層と等の性能を有すると認められる場合は省略するが得るものとする。		
(試験方法)			
(1)透水(4.0g)の透水性能			
(i)IS-AU1218「土の透水試験方法」の定水位透水試験に準じた「ルートレガマ <sup>®</sup> 」の透水性試験装置の下部に「試験体(透水材)」をかけし、その上に秒(iJS-A5201b)(ルートレガマ <sup>®</sup> )付録書に規定する秒)及び高さ250を容積比1:1の割合で充填し、高さ80mmの水頭容量に加压せずに均一に充填する。(試験体)			
(ii)容器内に「透水材」を充填後、20分下限の一定圧回数(圧力)の水頭差110mmを保持したまゝ1分間の透水量を計測し、透水係数を算定する。なお、乾燥状態の試験体は室温±3°C、湿度60±5%とする。			
(iii)「透水材」は、試験体の入った試験装置を取り出し、試験室内に水が切れる状態で試験室内に設置する。			
(iv)各「#」等の透水係数の移動を「F」化し、透水を過ぎまでにその値(透水の過の放縮率)により高さを算出し、透水係数の「昇降率」を算定できれば目次より該算方式によると判断し、合格とする。			
(v)試験開始後6時間、流水時透水量が30日を超えて「#」点で透水係数がまだ「#」に異ならない場合は、その後も透水量を増加する方向へ向かうまで流水時透水量を計長して確認することも可とする。(保水層を有する場合は保水層も対象とする。)			
(2)保水基層の吸水性能			
(i)10×10~4m <sup>2</sup> /minの等分布荷重による加压試験を行ない、排水層及び耐根圧層等に有害な変形・破損の起かないことを確認する。又その時の圧縮応力に対するひずみ(%)を算定する。			
(ii)保水層は保水層から透水までの通常使用状況における体積とする。加压速度は10mm/min以下とする。			
(3)屋上緑化システム(透水)			
(i)IS-AU1218「土の透水試験方法」の定水位透水試験に準じた「ルートレガマ <sup>®</sup> 」の透水性試験装置の下部に「試験体(透水材)」をかけし、その上に秒(iJS-A5201b)(ルートレガマ <sup>®</sup> )付録書に規定する秒)及び高さ250を容積比1:1の割合で充填し、高さ80mmの水頭容量に加压せずに均一に充填する。(試験体)			
(ii)容器内に「透水材」を充填後、20分下限の一定圧回数(圧力)の水頭差110mmを保持したまゝ1分間の透水量を計測し、透水係数を算定する。なお、乾燥状態の試験体は室温±3°C、湿度60±5%とする。			
(iii)「透水材」は、試験体の入った試験装置を取り出し、試験室内に水が切れる状態で試験室内に設置する。			
(iv)各「#」等の透水係数の移動を「F」化し、透水を過ぎまでにその値(透水の過の放縮率)により高さを算出し、透水係数の「昇降率」を算定できれば目次より該算方式によると判断し、合格とする。			
(v)試験開始後6時間、流水時透水量が30日を超えて「#」点で透水係数がまだ「#」に異ならない場合は、その後も透水量を増加する方向へ向かうまで流水時透水量を計長して確認することも可とする。(保水層を有する場合は保水層も対象とする。)			
(vi)保水層の吸水性能			
(i)10×10~4m <sup>2</sup> /minの等分布荷重による加压試験を行ない、排水層及び耐根圧層等に有害な変形・破損の起かないことを確認する。又その時の圧縮応力に対するひずみ(%)を算定する。			
(ii)保水層は保水層から透水までの通常使用状況における体積とする。加压速度は10mm/min以下とする。			

(2)戸当りの衝撃試験は、JIS A1510-2に規定する試験による。

〈天井点検口〉  
(品質・性能)  
内外材の材質 7A35cM型  
JIS H4006-A603Sは同等の性能を有するもの  
表面処理 不銹鋼表面処理規格 JIS H6501(A46)又は同等の性能を有するもの  
(性能を用いる場合) JIS H6502(B46)等は同等以上の性能を有するもの)  
内挿柱及び外柱の耐久性  
鋼管に巻きついた等の防錆処理を行ったものは又は同等の性能を有するもの  
外柱の取付け部  
鋼管に巻きついた等の防錆処理を行ったものは又は同等の性能を有するもの  
内挿柱の仕上げと留置物  
7A35cM及び4543cMの金型押出材、巻鉄めっき鋼板又は同等の性能を有するもの  
棒の内法許容範囲 0.5mm  
外挿柱の内径寸法 2.0mm以内

〔取扱方法〕

内面(内)の取り返し 摘脱駆除  
内面(内)の取り返し 40mm程度のものとする。  
吊り金具は、外枠天井下部取付用H41に直接取付ける方式(天井ドア)などの仕上げ材を抜んで同様なし方式)とする。標準仕様は14箇4部により製作した鋼製固定用天井下地開口補強に對応する天井穴φ140mm×450mm×50mmを吊り金具4箇所にて各バーチカルに取り付ける。なお、野球の規格品は、10箇と仕上げば、せことうごー「セコトウゴー」規格品( JIS A6901「セコトウゴー製品」)のOB-Rの難燃性又は発火性(2級以上)を2倍張りとする。  
(2)転換は、内面を開じた状態から開放してする動作を繰り返し行う。  
(3)測定は、内蓋記入式試験において、各50回目、100回目、300回目内蓋の垂れ下がり状態を測定する。  
(4)試験結果の判定は、下記による。  
①100~300回 内蓋の垂れ下がり 0.5mm以内

21 規格事 業	グレーチング チタン	<「レードラグ」 (品質・性能) (深型グレーチング)以下のもの又は同等のものとする	
		項目	品質・性能
ダイバー、サドラー及び エンドブレード	JIS G3101 SS400	マイナーブレード 普通目:30mm~35mm程度 継目:12.5mm~15mm程度	
カムバー	JIS G3101 SS400及びJIS G3430 SS400(熱間圧延材)JIS G3430 SS400(熱間圧延材)SPH 溶接巻船めっきの付着量 受け用接合アーム材	JIS G3101 SS400及びJIS G3430 SS400(熱間圧延材)JIS G3430 SS400(熱間圧延材)SPH JIS H4041(溶接巻船めっき)による試験において溶接巻船めっきの付着量 がH4040以上又はHD 50以上	
受け用接合アーム材 フレーク ふた 荷重性能	被せ仕上げと上手に組合せ 開閉 鋼製の組合 500mm内外 軽及び良きの付着量 ±3.0mm 設計荷重の1.5倍までの力加に対して、溶接部のはずれ等その他の上から ないものとする	被せ仕上げと上手に組合せ 開閉 鋼製の組合 500mm内外 軽及び良きの付着量 ±3.0mm 設計荷重の1.5倍までの力加に対して、溶接部のはずれ等その他の上から ないものとする	
<アルミ製グレーチング>		項目	品質・性能
ダイバー、カムバー エンドブレード、サドラー 受け用接合アーム材 フレーク ふた 荷重性能	JIS G3430, JIS G4304, JIS G4305, JIS G4308, JIS G4310のSUS304 又はJIS G3430, JIS G4304, JIS G4305, JIS G4308, JIS G4310, JIS G4318 JIS G4303, JIS G4304, JIS G4305, JIS G4308, JIS G4317, JIS G4318, JIS G4320のSUS304又はJIS G4304, JIS G4305のSUS304JL JIS G4304, JIS G4305, JIS G4317, JIS G4320のSUS304 又はJIS G4304, JIS G4305のSUS304JL JIS G3101 SS400 開閉 街道会場500mm内外 20程度 軽及び良きの付着量 ±3.0mm 設計荷重の1.5倍までの力加に対して、溶接部のはずれ等その他の異常が ないものとする	JIS G3430, JIS G4304, JIS G4305, JIS G4308, JIS G4310のSUS304 又はJIS G3430, JIS G4304, JIS G4305, JIS G4308, JIS G4310, JIS G4318 JIS G4303, JIS G4304, JIS G4305, JIS G4308, JIS G4317, JIS G4318, JIS G4320のSUS304又はJIS G4304, JIS G4305のSUS304JL JIS G4304, JIS G4305, JIS G4317, JIS G4320のSUS304 又はJIS G4304, JIS G4305のSUS304JL JIS G3101 SS400 開閉 街道会場500mm内外 20程度 軽及び良きの付着量 ±3.0mm 設計荷重の1.5倍までの力加に対して、溶接部のはずれ等その他の異常が ないものとする	

排水層	排水層の施工は、排水層の材質と施工法によって、透水性及び遮水性を有する場合と、透水性及び遮水性を有しない構造をもつて
排水層の施工直向の排水性能	240L/m <sup>2</sup> 以上
耐荷重性能	一般マクアカ吟味の上部歩行に際し破壊しないこと。
排水層の軽容圧縮強度	3.0E+10N/m <sup>2</sup> 以上の値を有する場合と、有寄りひずみなど異常のないこと。(保水層を有する場合は保水層)
耐根層	重ね合わせで計を認め、けり等の地下茎を持つ強い植物に対して3年以上の耐根性能を有し、かつ、耐食性及び耐久性のあるものであること。
防水層接着層	材料は、合成樹脂等として、耐食性及び耐久性を有し、かつ、施工中及び施工後の耐候性を保証するものであること。但し、防水層が防水層保護層と同等の性能を有すると認められる場合は省略することが可能なものとする。

（移動・仕切）  
（品質・性能・試験方法）

- (1) **ハサウエー試験**：表面に木材、パネル、板木、笠木及び補強材）及びハサウエーは、JIS A6512「可動間仕切」の表又はこれらと同等以上の品質性能を有し、かつ、接触底面をおこさないもの又は防食処理を施すものとする。
- (2) **外観試験**：JIS A6512「可動間仕切」の5.a)～c)による。
- (3) **内装の操作性**：  
a) 斜傾斜角度は90度以下とする。
- (4) **ハサウエー試験の耐久性**：  
b) **耐久性試験の同定・解除**は、7,500回の往復し耐久試験において異常のないものとする。
- (5) **耐衝撃性**：  
b) **耐衝撃性試験の前永久性試験後、質量50kgにおける衝撃試験において構造部材の折れ、曲りの異常がなく、表面の剥離、はがれがないものとする。また、接点・接床部が外れないこと及び多少のずれを生じても直ちに復位を達成し、走行可能なるものとする。**
- (6) **レールの耐久性**：  
a) **耐久性試験**：片側で牽引2倍が通過する部分を1m以上とし、その通過回数が30,000回以上で異常のないものとする。
- (7) **吊り手の耐久性**：  
a) **吊り手試験**：走行距離60kmで操作性に異常なく、レールに大きな変形がないものとする。
- (8) **吊り手の引張り強度**：  
一本にかかる荷重の15倍以上の引張り強度があるものとする。
- (9) **遮音性試験**：  
遮音性試験は、JIS A6512「可動間仕切」J8.2遮音性試験に準ずる。
- (10) **化学物質を放散する資材**：  
JIS A6512「可動間仕切」J4.7材料による。

- ①100～300回 内蔵の垂れ下がり 0.5m以内
- ②その他使用上において支障をきたす異常がないこと。

（荷重試験方法） 試験荷重は以下の通りとする					
歩道区分	供試種別	側溝用 (KN)	縫隙溝用 (KN)	加圧面積 (m <sup>2</sup> )	
車道	I-20	78.3	109.3	20.0	
	I-14	51.0	76.9	20.0	
	I-6	23.5	33.0	20.0	
	T-2	7.8	11.0	20.0	
歩道	4,903N(約40kg)当り				

試験体は、下記の種別ごとに強度計算における応力度が最大となる製品について試験を行う。

a) 溝ふた型  
側溝用 T-20~T-2のうち2種  
側溝用 のうち2種

b) U字溝型  
側溝用 T-20~T-2のうち2種  
側溝用 のうち2種

試験荷重を基準として一方斜面に亘り加力を行う。加速度は、4,903N/sとする。履り返し加力は3回行った後、残留ひずみ等がないか確認する。その後強度荷重の1.5倍まで加力し、溶接部のはずれ等異常の有無について確認する。

## 施工条件特記仕様書

下記項目のうち適用項目○印該当欄は、当該工事に関する施工条件として明示するものである。  
なお、明示事項に変更が生じた場合は、監督職員に報告し、協議するものとする。

				明示項目	適用項目	明示が必要な場合	明示事項	内容				
1 工程関係	○ 1. 開発工事との調整			6 仮設機器 関係	6 1. 仮設機器 (仮土留、仮橋、足場等)	仮設物を他の工事に引き渡す場合及び 引き継いで使用する場合	仮設物の内容 仮設物の期間 仮設物の条件					
						仮設機器の構造、工法及びその施工範囲を 指定する場合	仮設機器の種類 仮設機器の構造、施工方法、施工範囲	工事特記仕様書、図示による。				
						仮設機器の設計条件を指定する場合	設計条件の内容	図示による。				
						建設発生土の搬出	建設発生土が発生する場合 受入場所及び仮置き場所までの距離 処分又は保管条件	工事特記仕様書による。				
2 施工時期、時間の制限	○ 施工時期、施工時間及び施工方法が 制限される場合			7 建設副産 物等	7 1. 建設発生土の搬出 2. 建設副産物の利用 3. 建設副産物及び建設廃棄物の 処理	建設発生土の搬出	建設発生土が発生する場合 現場内での再利用又は減量化が必要な 場合	工事特記仕様書による。				
						建設副産物の利用	現場内利用の内容 減量化の内容					
						建設副産物及び建設廃棄物の 処理	処理方法、処理場所等の処理条件 建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律、資源の有効的利用の促進に関する 法律、廃棄物の処理及び清掃に関する法律その他の関係法令等によるほか、建設副産物 適正処理推進要綱に従い適切に処理する。					
						再資源化処理施設又は最終処分場を 指定する場合	受入場所、距離等の処理条件 建設廃棄物の種類、数量 処理等施設の名稱 片道 直距 距離	受入条件等				
4 地下埋設物及び埋蔵文化財の 事前調査	○ 工事着手前に地下埋設物及び埋蔵文化財 等の事前調査を必要とする場合			8 工事支障 物件等	8 1. 工事支障物件協議	地上、地下等における占用物件の有無 及び占用物件等で工事支障物が存在する 場合	支障物件名、管理者名等	支障物件名	管理者名	支障物件の位置		
						地下埋設物等の移設が予定されている場合	支障物件の移設時期	工事方法	防護			
						移設期間						
5 作業不能日数				9 排水 関係	9 1. 排水処理 2. 水替・流入防止施設	休日日数以外の作業不能日数						
						工事の規模（範囲）及び工期について 指定した部分がある場合	当該工事の規模（範囲） 当該工事の工期					
						施工のための仮用地等として施工者に、 官有地等を使用させる場合	場所・範囲 期間・時期 使用条件 復旧方法	建設機械株南側敷地（仮設計画図（参考図）参照） 本工事契約期間中 無償 現状復旧	地上、地下等の占用物件に係る工事期間 と重複して施工する場合	工事内容 工事期間		
3 公害関係	○ 1. 仮用地等として官有地の提供			10 薬液注入 注入関係	10 1. 薬液注入 2. 水替・流入防止施設	低騒音型、低振動型建設機械の指定に関する規定及び排出ガス対策型建設機械指定要領 に基づき指定される建設機械、設備を使用するものとする。	排水の工法、排水処理の方法及び排水の 放流先等を指定する場合	排水工法 排水処理の方法 放流先				
						2. 踏音、振動、地盤沈下、 地下水枯渇等の防止調査	事前・事後調査の区分 踏査時期 未然に防止するための必要な踏査方法 未然に防止するための必要な調査範囲	未然に防止するための必要な踏査方法 未然に防止するための必要な調査範囲	予定される排水量 排水の水質基準 放流水用			
						重波障害等に起因する 事業損失防止調査	事前・事後調査の区分 踏査時期 未然に防止するための必要な踏査方法 未然に防止するための必要な調査範囲	未然に防止するための必要な踏査方法 未然に防止するための必要な調査範囲	排水の工法、排水処理の方法等			
4 安全対策関係	○ 1. 交通安全施設			11 その他	11 1. 工事現場発生品 2. 支給品及び貸与品 3. 関連機器との連携協議 4. 仮設工法 5. 工事用水、電力	指定の内容 指定の期間	薬液注入を行う場合	設計条件、施工工法等	設計条件	施工工法	材料種類	
						2. 近接施工						
						鉄道、ガス、電気、電話、水道等の既設と接する 工事において施工方法等に制限がある場合						
						落石、雪崩、土砂崩落の 防護施設	落石、雪崩、土砂崩落に対する防護施設 が必要な場合	周辺環境に与える影響の調査が必要な場合	周辺環境調査の内容			
5 工事用道路関係	○ 4. 交通誘導員の配置			12 その他の 工事	12 1. 交通誘導員の配置 2. 有毒ガス及び酸素欠乏対策として、 換気設備等の内容	延べ人数 配置時間	交通誘導員A 交通誘導員B 原則0時～17時まで(8時間) 交通誘導員A 原則0時～17時まで(8時間) 交通誘導員B 原則0時～17時まで(8時間)	周辺環境に与える影響の調査が必要な場合	周辺環境調査の内容			
						5. 有毒ガス及び酸素欠乏対策として、 換気設備等の内容						
6 工事用道路	○ 1. 一般道の使用			13 仮道	13 1. 増入経路、使用時間、使用時間帯等に 制限がある場合 2. 境界線の設置 3. 安全施設等の設置期間 4. 境界線設置後の措置	増入経路、使用時間、使用時間帯等に 制限がある場合	敷地南側(愛水橋)のみ工事直前の出入り可とする。城北小学校側通路は通行しないこと。 本工事契約期間中 原則0時～17時まで(8時間)	東京都葛西川上大崎2-25-2 株式会社 横河建築設計事務所 一級建築士登録 第210615号 長 沢 雅 人	東京都葛西川上大崎2-25-2 株式会社 横河建築設計事務所 一級建築士登録 第233442号 和 田 雄 審	東京都葛西川上大崎2-25-2 株式会社 横河建築設計事務所 一級建築士登録 第307492号 鶴 井 鑑 之	平成26年度静岡県立総合病院PETセンター仮設渡り廊下新築工事	A1：－
						2. 境界線の設置					A3：－	
						3. 安全施設等の設置期間						
						4. 境界線設置後の措置						
7 施工条件特記仕様書	○ 2. 仮道			14 その他の 工事	14 1. 仮設道路の設置 2. 仮設道路の撤去	仮設道路の設置						
						仮設道路の撤去						
8 施工条件特記仕様書	○ 3. 施工条件特記仕様書			15 その他の 工事	15 1. 施工条件特記仕様書	施工条件特記仕様書						
						施工条件特記仕様書						
9 施工条件特記仕様書	○ 4. 施工条件特記仕様書			16 その他の 工事	16 1. 施工条件特記仕様書	施工条件特記仕様書						
						施工条件特記仕様書						
10 施工条件特記仕様書	○ 5. 施工条件特記仕様書			17 その他の 工事	17 1. 施工条件特記仕様書	施工条件特記仕様書						
						施工条件特記仕様書						
11 施工条件特記仕様書	○ 6. 施工条件特記仕様書			18 その他の 工事	18 1. 施工条件特記仕様書	施工条件特記仕様書						
						施工条件特記仕様書						
12 施工条件特記仕様書	○ 7. 施工条件特記仕様書			19 その他の 工事	19 1. 施工条件特記仕様書	施工条件特記仕様書						
						施工条件特記仕様書						
13 施工条件特記仕様書	○ 8. 施工条件特記仕様書			20 その他の 工事	20 1. 施工条件特記仕様書	施工条件特記仕様書						
						施工条件特記仕様書						
14 施工条件特記仕様書	○ 9. 施工条件特記仕様書			21 その他の 工事	21 1. 施工条件特記仕様書	施工条件特記仕様書						
						施工条件特記仕様書						
15 施工条件特記仕様書	○ 10. 施工条件特記仕様書			22 その他の 工事	22 1. 施工条件特記仕様書	施工条件特記仕様書						
						施工条件特記仕様書						
16 施工条件特記仕様書	○ 11. 施工条件特記仕様書			23 その他の 工事	23 1. 施工条件特記仕様書	施工条件特記仕様書						
						施工条件特記仕様書						
17 施工条件特記仕様書	○ 12. 施工条件特記仕様書			24 その他の 工事	24 1. 施工条件特記仕様書	施工条件特記仕様書						
						施工条件特記仕様書						
18 施工条件特記仕様書	○ 13. 施工条件特記仕様書			25 その他の 工事	25 1. 施工条件特記仕様書	施工条件特記仕様書						
						施工条件特記仕様書						
19 施工条件特記仕様書	○ 14. 施工条件特記仕様書			26 その他の 工事	26 1. 施工条件特記仕様書	施工条件特記仕様書						
						施工条件特記仕様書						
20 施工条件特記仕様書	○ 15. 施工条件特記仕様書			27 その他の 工事	27 1. 施工条件特記仕様書	施工条件特記仕様書						
						施工条件特記仕様書						
21 施工条件特記仕様書	○ 16. 施工条件特記仕様書			28 その他の 工事	28 1. 施工条件特記仕様書	施工条件特記仕様書						
						施工条件特記仕様書						
22 施工条件特記仕様書	○ 17. 施工条件特記仕様書			29 その他の 工事	29 1. 施工条件特記仕様書	施工条件特記仕様書						
						施工条件特記仕様書						
23 施工条件特記仕様書	○ 18. 施工条件特記仕様書			30 その他の 工事	30 1. 施工条件特記仕様書	施工条件特記仕様書						
						施工条件特記仕様書						
24 施工条件特記仕様書	○ 19. 施工条件特記仕様書			31 その他の 工事	31 1. 施工条件特記仕様書	施工条件特記仕様書						
						施工条件特記仕様書						
25 施工条件特記仕様書	○ 20. 施工条件特記仕様書			32 その他の 工事	32 1. 施工条件特記仕様書	施工条件特記仕様書						
						施工条件特記仕様書						
26 施工条件特記仕様書	○ 21. 施工条件特記仕様書			33 その他の 工事	33 1. 施工条件特記仕様書	施工条件特記仕様書						
						施工条件特記仕様書						
27 施工条件特記仕様書	○ 22. 施工条件特記仕様書			34 その他の 工事	34 1. 施工条件特記仕様書	施工条件特記仕様書						
						施工条件特記仕様書						
28 施工条件特記仕様書	○ 23. 施工条件特記仕様書			35 その他の 工事	35 1. 施工条件特記仕様書	施工条件特記仕様書						
						施工条件特記仕様書						
29 施工条件特記仕様書												



